

<外国語>

個別最適な学習によって読むこと的能力と意欲を高める授業改善

～ 小集団交流を生かした他者との協働的な学びを通して ～

大垣市立興文中学校 教諭 柳瀬 あすか

【概 要】

中央教育審議会から、全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現が求められている。児童生徒が自己調整しながら学習を進めていくことができるような授業改善が必要だ。そこで、英語科の4技能の内、全体指導の時間が比較的多く設けられている「読むこと」に焦点を当て、個別最適な学習によって読むこと的能力と意欲を高めるための授業改善を行った。「個別最適な学習環境づくり」「小集団での対話によって学びを深める単位時間の指導の工夫」を研究内容とし、授業実践を進めた。「個別最適な学習環境づくり」においてはICTを活用した授業展開や、学びに必要なと思う学習形態を生徒自身が選択できるように授業改善を行った。「小集団での対話によって学びを深める単位時間の指導の工夫」では、一つではない答えを追究する学習課題の設定や、対話活動の合間に、深い学びを促すための「考える視点」を与えることを通して、読むこと的能力と意欲を高める授業の改善を目指した。

1. 主題設定の理由

(1) 日本型学校教育の構築を受けて

令和3年に中央教育審議会から日本型学校教育の構築を目指す答申が出された。具体として、全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現が提言された。「個別最適な学び」については、「指導の個別化」と「学習の個性化」に整理されており、指導の在り方は以下のように示されている。

・全ての子供に基礎的・基本的な知識・技能を確実に習得させ、思考力・判断力・表現力等や、自ら学習を調整しながら粘り強く学習に取り組む態度等を育成するためには、教師が支援の必要な子供により重点的な指導を行うことなどで効果的な指導を実現することや、子供一人一人の特性や学習進度、学習到達度等に応じ、指導方法・教材や学習時間等の柔軟な提供・設定を行うことなどの「指導の個別化」が必要である。

・基礎的・基本的な知識・技能等や、言語能力、情報活用能力、問題発見・解決能力等の学習の基盤となる資質・能力等を土台として、幼児期からの様々な場を通じての体験活動から得た子供の興味・関心・キャリア形成の方向性等に

応じ、探究において課題の設定、情報の収集、整理・分析、まとめ・表現を行う等、教師が一人一人に応じた学習活動や学習課題に取り組む機会を提供することで、子供自身が学習が最適となるよう調整する「学習の個性化」も必要である。

このことから、児童生徒が自己調整しながら学習を進めていくことができるように指導することが重要であると分かる。英語科においては、ICTの活用と結びつけることで、教師は英作文のレポートや対話を撮影した生徒の学習ログから、学習の習熟度を把握・分析し、生徒への助言ができると考える。また、生徒自身もデジタル教科書の音声読み上げ機能等のICTを用いることで学びの質が高まり、深い学びにつながることを期待される。同時に、生徒自身が言語活動の記録や教師からのフィードバックを活用しながら、自らの学びの状態を把握し、自分に合った学習の進め方を考えることができるよう、教師による指導の工夫も必要だと考える。

「協働的な学び」については、以下のように示されている。

探究的な学習や体験活動などを通じ、子供同

士で、あるいは地域の方々をはじめ多様な他者と協働しながら、あらゆる他者を価値のある存在として尊重し、様々な社会的な変化を乗り越え、持続可能な社会の創り手となることができるよう、必要な資質・能力を育成する「協働的な学び」を充実することも重要である。

このことから、これからの時代に求められる資質・能力の確実な育成を目指すと共に、これまで大切にしてきた教育実践である「主体的・対話的で深い学び」の実現に向け、授業改善を推進していく必要があると考えた。

（２）生徒の実態から

英語科の授業内で、コミュニケーションを行う際には、①目的や場面、状況などを意識すること。②簡単な情報や考えなどを理解すること。③理解したことを活用して表現したり伝えあったりすること。が重要視される。単元や単位時間の出口の活動は、③にあたり、英語科の４技能の内の、「話すこと」「書くこと」の言語活動が行われる。しかし、担当する学年では②の理解する過程に苦手意識をもつ生徒が多数おり、４技能の中でも「聞くこと」より「読むこと」に抵抗感があることが生徒の実態から分かった。

そこで、個別最適な学習や小集団を生かした他者との協働的な学びを通して、読むこと的能力と意欲を高める生徒の育成を目指し、次のような仮説を立てた。

2. 研究仮説

【研究テーマ】

個別最適な学習によって読むこと的能力と意欲を高める授業改善

～小集団交流を生かした他者との協働的な学びを通して～

【仮説】

デジタル教科書等の ICT を活用した授業を展開したり、小集団による様々な形態の対話活動を仕組んだりする。また、目的や場面、状況などを意識して課題解決を考える中で、個人追究や協働的な学び等、自らに合った個別最適な学習の進め方を選択することで、読むこと的能力と意欲を高めることができるであろう。

3. 研究内容

研究内容（１）

個別最適な学習環境づくり

- ① デジタル教科書を活用した授業展開
- ② 様々な形態の対話活動の効果検証

研究内容（２）

小集団での対話によって学びを深める単位時間の指導の工夫

- ① 学びを深めるための学習課題の在り方
- ② 言語活動中に考える視点を与える指導

4. 研究実践

今回は、第２学年の食文化の融合が題材となっている Unit2 Food Travels around the World と将来の AI との共存が取り上げられている Unit3 My Future Job の２つの単元で研究を実践する。

研究内容（１）

個別最適な学習環境づくり

- ① デジタル教科書を利用した授業展開

本単元の学習に入る前に、個別最適な学習の仕方の例として、使うものは「デジタル教科書」か「紙の教科書」か、選択できることを伝えた。単元の Scene1 や Scene2 等の比較的本文が短い際には、紙の教科書を用いる生徒もいたが、Unit3 の Read and Think1,2 では聞きなれない単語や、前後の文章から意味を推測しづらい単語が増えるため、デジタル教科書を用いる生徒が増えた。授業展開の際は、従来行っていたフラッシュカードでの発音や意味の確認の時間や音読の時間を全体ではとらないことを心掛けた。あくまでも本文の内容理解が目的ではなく、学習課題の達成のために必要な情報を、本文から読みとることを目標としているため、困り感があれば生徒が自ら音声や意味を確認しながら取り組むように指導した。特に単位時間の課題をリテリングと関わらせて設定したときには、多くの生徒が単語の発音を繰り返し再生して確認し、読みとりに意欲的に取り組んだ。新出単語の確認や内容理解をある程度生徒に委ねることで、全体確認の時間が短縮され、読みとり後の単位時間の出口の活動として設けた「話す

こと」「書くこと」の活動に、十分な時間を確保することができた。

② 様々な形態の対話活動の効果検証

本校では学習活動の一環として、立場を変えたり、新たな視点で考えを交流したりすることを目的にした、3～4人の小集団を作成している。5月に全校に行った学校アンケートで「対話活動を通して、自分の考えを深めたり広げたりしている」の項目に対して、72.3%の生徒が「当てはまる」「どちらかと言えば当てはまる」と答えた。その一方で、「小集団になると意見を言わなければならないプレッシャーがある。」と、意見交流に苦手意識をもつ生徒や、課題や対話のテーマによっては、「一人でも考えることができる。」と、対話活動の必然性を感じていない生徒も少なくはなかった。また、小集団の基本編成は生活班を母体としたものになっている。どの教科の授業でも対話活動が取り入れられているため、活動に慣れ、スムーズに進められる良さがある一方で、積極的に発言する生徒とそうでない生徒が固定されていたり、出た答えからさらに追究する姿勢に、グループごとの差がみられたりした。そこで、個別最適な学習を目指し、①と同様に学習方法についても本単元の学習に入る前に、読みとりの取り組み方には、「個人で取り組むこと」「友達に聞くこと」「教員に聞くこと」があることを伝えた。今回の実践では、必要に応じて小集団を組むため、【写真1】のように編成方法も生徒に委ねる形にした。



【写真1 必要に応じて小集団を組む様子】

自身で学習形態を選択できることに特に有用性を感じていたのは、これまで読みとりの言語活動に困り感をもっていた生徒である。「困っているから小集団を選択している」という周知の事実があるため、困ったらいつでも立ち止まって確認できる環境に安心感をもって活動

に参加できたと述べる生徒もいた。しかし、活動の序盤には、学習中に本文の意味や内容を全て教えているペアもいたため、「相手の学びにもなるように一緒に読み進める」等の最低限のルールづくりの指導を行った。終盤にはヒントを出しながら活動を行える生徒も増え、読みとりに苦手意識があった生徒も、思考を止めることなく意欲的に取り組む姿が増えた。

編成方法を自由にしたことで意欲的に取り組む生徒が増えた良さもあったが、学級によっては、生徒が人間関係を重視した編成法を選択し続けることに課題が生じた。本来、学力の観点や違う意見をもっている生徒同士で編成されることが理想だが、聞きやすさや話しやすさで編成する集団もあり、グループごとの学習進度に差が出る単位時間もあった。そこで、進度に差が生まれるのはなぜかを生徒に問いかけ、小集団のあるべき姿を考えなおしたことで、活動の途中でも新しく小集団を編成し直すなど、新しい変化を生むことができた。その結果、授業アンケートにおいて、「教科書本文を読んで内容を理解することは好きか」「教科書本文を読んで内容を理解することは得意か」の問いに「好きである」「どちらかといえば好き」と答えた生徒が増えた。また、12月に行った5月と同様の全校の学校アンケートでは「対話活動を通して、自分の考えを深めたり、広げたりしている」の項目は、87.5%の数値まで上がった。

研究内容（2）

小集団での対話によって学びを深める単位時間の指導の工夫

① 学びを深めるための学習課題の在り方

研究内容（1）で前述したとおり、本文の内容理解を単位時間の出口の活動にはせず、学習課題の達成のために必要な情報を、本文から読みとり、得た情報を用いて表現することを単位時間の出口の活動として設定した。生徒が意欲的に取り組めるようにするには、目的や場面、状況を明確にした課題が必須である。そこで、各単元の中で「読みとり」を評価規準においた、単位時間の学習課題を以下のように設定した。

Unit2

Part1	(スピーチのタイトルを迷っているというジョシュに対して) What is your idea of the title for Josh's speech?
Read and Think1	(日本のカレーよりインドのカレーが好きな ALT からの疑問として) Why is Japanese curry popular?
Read and Think2	(2回目のスピーチを行ったジョシュが伝えたかったことは何かを質問する ALT のために) Why did Josh try to do his speech again?

Unit3

Part1	What is a title of an article?
Part2	(翻訳会社の職業体験を控えるアサミからの質問として) What questions should I ask?
Read and Think1,2	(アサミの職業体験レポートを読んで) What comment will you give Asami?

本文の内容を Input した後に、課題解決のために Output する活動を設けることで、読みとることへの必然性が生まれ、何が必要な情報なのかを精査しながら、活動に意欲的に取り組む姿勢がみられた。さらに、どの課題にも決まった答えがないため、生徒間で疑問や意見を出し合いながら追究する協働的な学びの姿がどの小集団でも見られた。

また、今回の実践では研究内容(1)に関わり、個別最適な学習が読みとり能力の向上に影響するのか検証するにあたって、従来のように全体指導の時間を多く設けたクラスと研究実践クラスを設定し、比較した。ただ、学習内容に差ができないように単位時間の学習課題は同じものにした。従来クラスではプリントを用いて、T or F や Q&A で本文理解を小集団で進めた後、課題解決の活動を行った。全体指導で本文の内容理解をすることで学習進度の差はほぼ無いまま、出口の活動に取り組むことができた。しかし、プリントの問題を解く際に、課題を意識した読みとりを行っていないのか、課題に対する答えやレポートの提出までに、プリントの問題に取り組む時間に加えて、研究実

践クラスが行った活動時間と同等の時間を要した。目的や場面、状況が含まれた課題設定が学びを深めることと直結するわけではなく、課題達成までの学習過程の中で、課題に立ち返らせる指導を単位時間を通して行うことが必要だと感じた。

② 言語活動中に考える視点を与える指導

①で前述した通り、課題に立ち返らせたり、答えの追及のために、深い読みとりを促したりする指導の必要性から、個別最適な学習を進める途中で、考える視点を与える指導に取り組んだ。以下の事例は生徒の様子を見ながら、随時指導した内容である。

Unit2 Read and Think1

Aim: Why is Japanese curry popular?

「なぜ日本のカレーは人気なのか」という ALT からの疑問に対して、カレーの成り立ちについて書かれた本文の内容から考えた意見を、ビデオメッセージで返答する活動を行った。話すこと[発表]の対話活動を始めた際に、本文から Input したカレーの歴史(事実)を並べて情報を伝える生徒が多くいた。そこで、「【書かれている事実=人気の根拠】になるのか」を考える視点として発問した。再度小集団で読みとり活動を行う中で「スパイスをパウダーにした」という事実からは、「調理がしやすくなった」という推論をする生徒や、「野菜をカレーに加えた」という事実からは、「ヘルシーである」と意見をもつ生徒が増え、事実と意見を結び付けて考えをもてる生徒が増えた。

Unit3 Part1

Aim: What is a title of an article?

本文を読みとった後、生徒が提出したタイトルは“About AI”など簡易的なものが多かった。そこで、「この記事を読みたいと思える見出しは」を考える視点として机間指導を行った。読者の視点に立たせることで、タイトルには読者を惹きつける工夫が必要だということに気付く生徒が増え、何度も読み返すことで、How should we face the age of AI?を本文から抜き出したり、My life with AI など自分事として捉えたタイトルを考えたりする生徒が出てきた。しかし、読み手を意識した考え方については、Unit2

でも指導したことだったため、継続した指導が必要だと感じた。

Unit3 Read and Think1・2

Aim: What comment will you give Asami?

「アサミの職業体験レポートの本文を読み、どんなコメントをするか」という課題に対して書きまとめる活動の前に、対話で伝える活動を仕組んだ。しかし、「Your report is long. It's a good report.」など、本文の内容に関わらない体裁についてのコメントを述べている生徒が少なくなかった。そこで、Level 0. 伝える内容がまとまらない。Level 1. 日本語でなら言える。Level 2. 英語でまとめられる。の3段階で、どの段階にいるのかを問うと、0だと答える生徒が多かった。そこで、生徒の対話の様子を見ながら、「レポート（本文）を読んでどう感じたか」「賛成できるか」「自分は思うか」などの考える視点を与えたり、有用な既習表現を全体で共有したりした。共有後、対話活動を再び行い、出口の活動として【図1】のようなコメントを書きまとめた。

I read your report.
It's very good!
I thought it's important to learn.
So I continue to lean about English.
It can be my strength in the future.
Maybe it is difficult to translate.
You can do it!
Also, I knew AI sometimes misses.
I often use AI.
So I want to support AI and use it effectively.
I hope you will be a good translaor.

I know AI will take some jobs to see you report.
I think it's very difficult for you to study English and deep knowledge of Japanese. But I think you can do it! You're continue to learn about it more, you can be a good translator!
Also I know AI is sometimes misses. So I want to careful when I use AI.

【図1 Unit3 Read and Think1・2の出口の活動で提出した生徒のコメント】

このように、コメント内に本文から読みとつ

た内容から感じたことや自身の考えを含めたことで、内容のふくらみを実感した生徒が多かった。また、本文の情報だけでなく、表現を抜き出したり活用したりすることで、自分の考えを、より多様な表現方法で述べられることに気付いた生徒もいた。その気付きを小集団の対話活動で広げることにより、読みとりや書くことの活動において、さらに深い学びあいが実現したグループもあった。【図2】

Hi Asami.
I read your report.
It's so very interesting.
I agree with Tanaka answer.
Her opinion is right.
I knew English is very important.
but I don't know AI is not good at understanding.
I am surprised.
I hope your dreams come true.

Hi Asami.
I read your report.
It's learned lot of things.
I use AI but I thought AI is scary because it's very use ful.
I hope you become bridge between people through language.

実線は有用な表現を共有したもの
点線は教科書本文からの表現

【図2 同じ小集団内で作成した生徒2名のコメント】

以上のことから個別最適な学習や協働的な学びを通して、読みとりの能力や意欲を育むことができた。

5. 成果と課題

本実践における成果○と課題●は次の通りである。

○デジタル教科書を利用した授業を展開することで、生徒自身が必要に応じて音声読み上げ機能や新出単語の意味を確認できるようになった。どの生徒にとっても学習の手助けとなったため、読みとりの活動に意欲的に取り組んだ。

○生活班を母体にした小集団だけでなく、個別最適な学びのための学習形態を、授業内で随時編成し続けることで、どの生徒も思考を止めることなく読みとり活動を行うことができ、対話活動に有用性を感じる生徒の増加につながった。

○目的・場面・状況を含む、決まった答えのない学習課題を設定することで、本文の内容を何度も確認しながら、疑問や意見を言い合う協働的な学びの場を設けることができた。

○対話活動中や言語活動中に、新たな考える視点を加える問いかけや指導をすることで、事実と意見を結び付けて考える生徒が増えたり、多面的な視点から意見を述べたりできる生徒が増え、英語力の向上だけにとどまらない学びにつながった。

●学習課題によっては、小集団の編成を人間関係だけでなく、学力や異なる意見や考えをもつ生徒同士で編成させるなど、身に付けさせたい力に沿った指示をすることで、さらに学びが深まる授業実践を進める。

●対話活動や言語活動の合間に打つ指導が、単元をまたぐと忘れていた生徒もいるため、フレーズ化したり、繰り返し継続的に指導をしたりする工夫が必要である。

●読むこと以外の3領域においても、同様の個別最適な学びや、小集団交流を活かした学習形態の工夫を実践していく。

6. 参考文献

- ・「令和の日本型学校教育」の構築を目指して～全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現～（答申）
中央教育審議会